

第3・6学年国語科学習指導案

1 指導目標

いろいろな読み物に興味をもち、読む。(読ア)
「三年とうげ」を読み、場面の移り変わりや情景を叙述をもとに想像しながら読む。(読ウ)
読み取った内容について、おもしろかったこと不思議なことなど自分の考えをまとめ、一人一人の感じ方に違いがあることに気づく。(読工)
書かれている内容の中心や場面の様子がよく分かるように声に出して読む。(読カ)
読み手に本のおもしろさが伝わるように工夫して、本の帯の文章を書く。(書ア)
伝えるために書く必要のある事柄を収集したり選択したりして、本の帯を作る。(書イ)

2 単元名

本と友だちになろう

3 教材名

三年とうげ

本は友だち

4 教材について

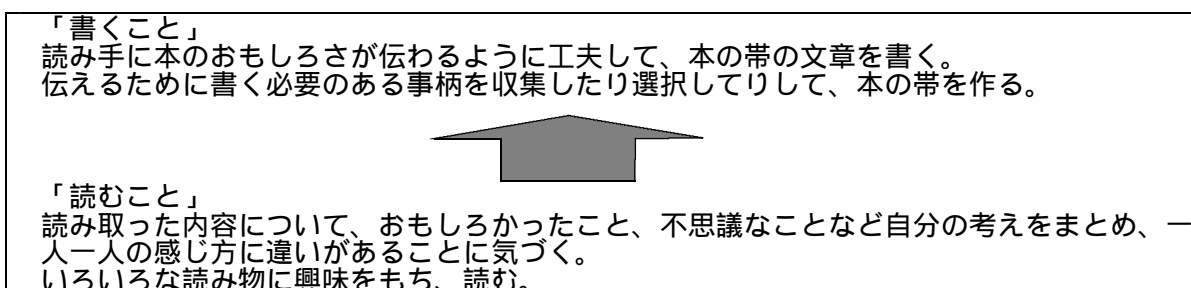
(1) 教材について

本教材、三年とうげは、全体に流れるリズム、テンポの良さ、起承転結の構成に加えて「ところで」で始まるおまけのなぞかけもあり楽しく読める物語である。起承転結のおもしろかったこと、不思議なことなどを自分の考えにまとめるなかで一人一人の感じ方に違いがあることに気づくことができる教材である。三年とうげを学習した後、次の本は友だちで、自分で本を読み、印象を帯び作りで取り組む。簡潔でインパクトのある表現が求められることから、要旨をまとめること学習にもつなげる効果的な教材である。

3年上、「きつつきの商売」では、森の様子や聞こえてくる音を想像したり、登場人物の気持ちを想像したりししながら、楽しく物語の世界に引き込まれて読んでいる。

楽しさに気づき、読むことができる教材である。

この、教材で、「読むこと」を生かした「書くこと」とは以下のように考える。

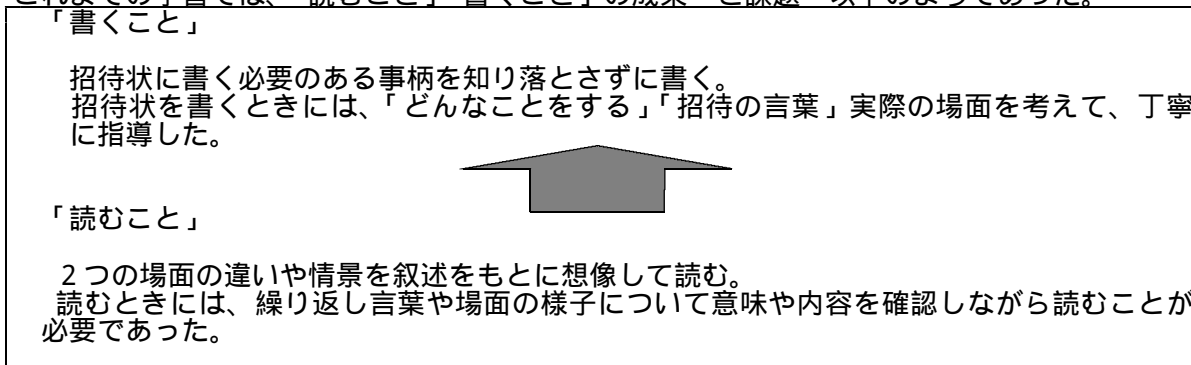


(2) 児童について

児童は、本を読むことが好きで、朝読書や学校の本、しらかば号の本を読んでいる。また、日記では、自分の気持ちを書くことを大切にして、書いている。

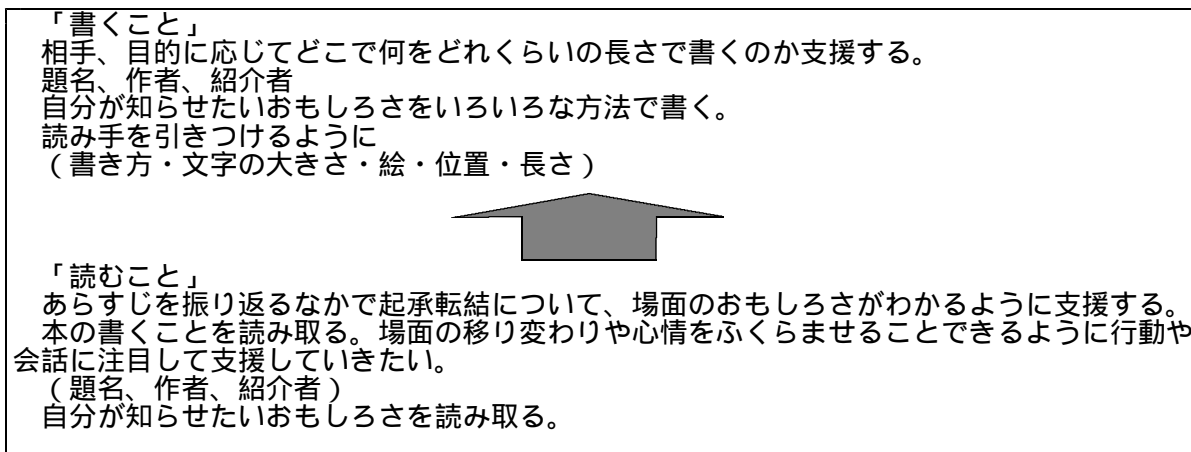
3年上「きつつきの商売」では、2つの場面の違いや情景を叙述をもとに想像して読んで書くことを知り必要のある事柄考え落とさずに書いている。

これまでの学習では、「読むこと」「書くこと」の成果 と課題 以下のものであった。



(3) 指導について

本教材は、本のおもしろさを友達に伝え合う中で、進んで本を読もうとする意欲を持たせるために、おもしろいところのわけを考える。全体をとらえてではなく各段落ごとに学習していきたい。登場人物、物語の筋、言葉のおもしろさの3つに絞って考えさせていきたい。
登場人物については、行動や様子会話から押さえさせたい。物語の筋では、あらすじを振り返るなかで起承転結の4つで考えさせたい。本の帯を作るときには、他の本の帯に触れさせことや短い文でおもしろさを伝えていくこと、言葉を工夫することを通して指導させる。



(4) 「読むこと」と「書くこと」の相関図 (16時間)

	書 く こ と			
第4次	第16時 紹介し合う。			



	書 く こ と			
第3次	第8時 本の帯の役割を理解する。	第9～10時 本の帯を作ろう。	第11～13時 読みたい本をさがして読もう。	第14～15時(本時1/2) 読みたい本の帯を作ろう。



	読 む こ と					
第2次	第1時 人物についておもしろかったことを読む。	第2時 物語のすじについておもしろかったことを読む。	第3時 言葉についておもしろかったことを読む。	第5時 物語のおもしろさを筋から見つけよう。	第6時 物語のおもしろさを言葉から見つけよう。	第7時 物語の心に残った言葉を見つけよう。



	読 む こ と	
第1次	第1時 全文を読んで、学習のめあてをもつ。 関連図書を読む。	

5 評価規準
 具体の評価規準

いろいろな読み物に興味をもち、読む。(読ア)
 「三年とうげ」を読み、場面の移り変わりや情景を叙述をもとに想像しながら読む。(読ウ)
 読み取った内容について、おもしろかったこと不思議なことなど自分の考えをまとめ、一人一人の感じ方に違いがあることに気づく。(読エ)
 書かれている内容の中心や場面の様子がよく分かるように声に出して読む。(読カ)
 読み手に本のおもしろさが伝わるように工夫して、本の帯の文章を書く。(書ア)
 伝えるために書く必要のある事柄を収集したり選択したりして、本の帯を作る。(書イ)

主な学習活動	評価規準 (方法)	具体の評価規準		
		A	B	C(指導の手立て)
	物語のおもしろさを進んで発見しさまざまな読み物に興味を持って本の帯びを書こうとしている。	物語のおもしろさを進んで発見しさまざまな読み物に興味を持って本の帯びを書こうとしている。	物語のおもしろさを発見しさまざまな読み物に興味を持って本の帯びを書こうとしている。	物語のおもしろさには人物、物語のすじ、ことばについてわけて読む中でほんの帯を書くように支援する。
第1次 - 全文を読んでめあてをもつ	読 進んで本をもうとする意欲をもって読んでいる。	進んで本を読もうとする意欲をもって読んでいる。	本を読もうとする意欲をもって読んでいる。	本を読もうとする意欲をもつように読ませる。
第2次 - おもしろさを大きな視点に分け読む。	読 おもしろさを視点を明確にして読む	おもしろさを視点を明確にして読んでいる。	おもしろさを視点にして読んでいる。	おもしろさの視点を明確にさせて読ませる。
第2次 - 物語の筋や言葉や文のおもしろさに視点を置き物語りの楽しさを発見する。	読 物語のおもしろさのわけを、筋や言葉のおもしろさから見つけている。	物語のおもしろさのわけを、筋や言葉のおもしろさから見つけている。	物語のおもしろさのわけを、言葉のおもしろさから見つけている	物語のおもしろさのわけを、筋や言葉のおもしろさから見つけさせるよう読ませる。
第3次 - 本の帯作りをするための工夫がわかる。	書 本の帯作りをするための工夫を理解している。	本の帯作りをするための文章・絵・文字の工夫を理解している。	本の帯作りをするための文章・絵・文字の工夫を理解している。	本の帯作りをするための文章・絵・文字の工夫をみつけさせる。
第3次 - 3年とうげの本の帯をつくらう。	書 おもしろさを伝えるために言葉を選んで工夫した表現方法をしている。	おもしろさを伝えるために言葉を選んで工夫した表現方法をして作っている。	おもしろさを伝えるために言葉を選んで表現方法をして作っている。	おもしろさを伝えるために言葉を選ばせるようにする。
第3次 - 4/5(本時) みたい本を探して読み本の帯を作る。	書 相手に伝えたい部分を自分なりの考えで選び簡潔にわかりやすく表現している。	相手に伝えたい部分を自分なりの考えで選び簡潔にわかりやすく表現している。	相手に伝えたい部分を自分なりの考えで選び簡潔に表現している。	相手に伝えたい部分を自分なりの考えで選びにわかりやすく表現するように支援する。
第4時 - 本のおもしろさを紹介合う。	話 本のおもしろさを視点を絞って紹介し合う。	本のおもしろさを視点を絞って紹介し合っている。	本のおもしろさを絞って紹介し合う。	紹介する視点を絞って支援する。

6 本時について

(1) 目標

本の帯を書くことができる。

(2) 本時の構想

教科書の例や他の本の帯を見ながら具体的なイメージをもたせながら作らせた。どこに・何を・どれくらいの長さで書くこと、読む人を引きつける書き方や文字の大きさ、絵を下書きをしながら考えさせたい。

3 年 生			
段階	学習活動と学習内容	指導上の留意点	直間
つかむ 5分	1 前時までの学習内容を想起する。 2 本時の学習課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">相手に伝えたいことを言葉を選んで本の帯をつくろう。</div>	読むことで学んだことを確認する。 ・題名 ・作者の名前 ・紹介者の名前 ・自分が知らせたいおもしろいこと 相手に伝えたい部分を自分なりの考えで選び簡潔に表現している。 ・本の帯びが作品スタイルになることを確認する。	
ふかめる 32分	3-1 教師と学習課題を追求する活動をする。 本の・帯を書く。 3-2 学習課題を追求する活動をする。 読み手を引きつける書き方が見直す。	1 どのおもしろさを紹介するのか選ぶ。 登場人物、あらすじ、言葉や文章 2 表したいことを文章にまとめる。 3 どこに、何を、どれくらいの長さで書く。 読み手を引きつける書き方。 文字の大きさ・絵。 4 絵。 5 本番用の画用紙に書く。 自己評価できるように励ます。 ・どこに、何を、どれくらいの長さで書く。 ・読み手を引きつける書き方。 ・文字の大きさ・絵。 ・面白いと思ったところを大事に書かせる。 相手に伝えたことを自分なりの考えかたで選んで書いている。 ・書いたら読み直し、間違いがないか確かめさせる。	
まとめる 5分	5 学習のまとめをする。	・発表する。 ・書いたことを発表する。 ・6年生の発表を聞いて拍手する。	
ふりかえる 3分	6 学習を振り返る。 7 次時の学習を確かめる。	・本時学習の振り返りを発表する。 ・よかったこと、がんばったことなど発表する。 ・表現タイムまでに学習で取り組むことを確認する。	

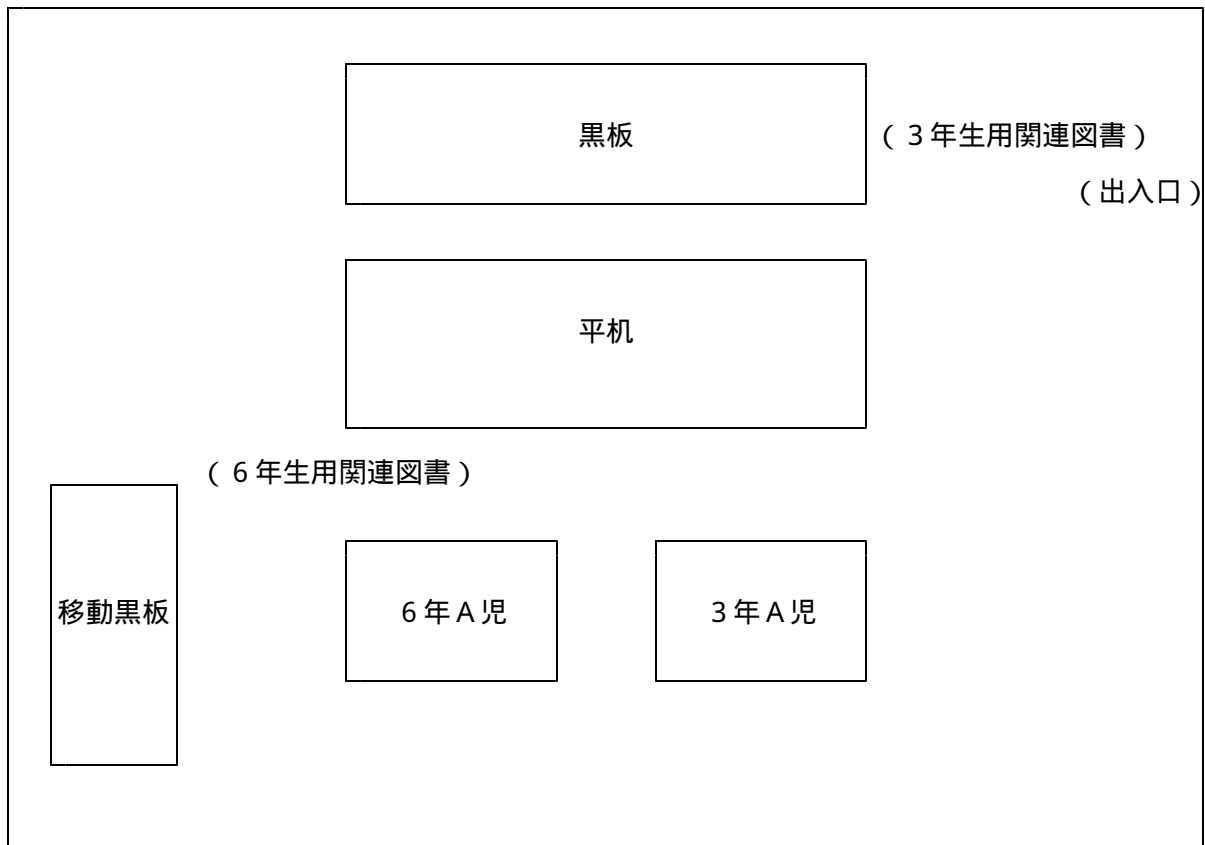
(3) 評価規準

A	相手に伝えたい部分を自分なりの考えで選び簡潔にわかりやすく表現している。
B	相手に伝えたい部分を自分なりの考えで選び簡潔に表現している。
C	相手に伝えたい部分を自分なりの考えで選びにわかりやすく表現するように支援する。

(4) 板書計画

<p>5 本番用の画用紙に書く</p> <p>4 絵</p> <p>3 読み手を引きつける書き方 文字の大きさ・絵</p> <p>2 表したいことを文章にまとめる どこに、何を、どれくらいの長さで書く。</p> <p>1 どのおもしろさを紹介するのか選ぶ。 登場人物、あらすじ、言葉や文章</p>	<p>・ 題名</p> <p>・ 作者の名前</p> <p>・ 紹介者の名前</p> <p>・ 自分が知らせたいおもしろいこと</p>	<p>相手に伝えたいことを 言葉を選んで帯をつくる。</p>	<p>本は友達</p>
--	---	------------------------------------	-------------

(5) 座席表



日時 平成18年 9月8日(金) 5校時
児童数 3年 女子1名
6年 男子2名 女子1名 計4名
指導者 阿部 孝明・佐藤 亜紀子
場所 3・6年教室

1 指導目標

筆者の心の動きと場面の情景を叙述に即して読む。(読ウ)
さまざまなジャンルの本に親しむ。(読ア)
読書紹介のために、必要な事柄に注目して読み返す。(読オ)
キャッチコピーなどを工夫しながら読書紹介を行う。(書ア)

2 単元名

読書の世界をふかめよう

3 教材名

森へ
本は友達

4 教材について

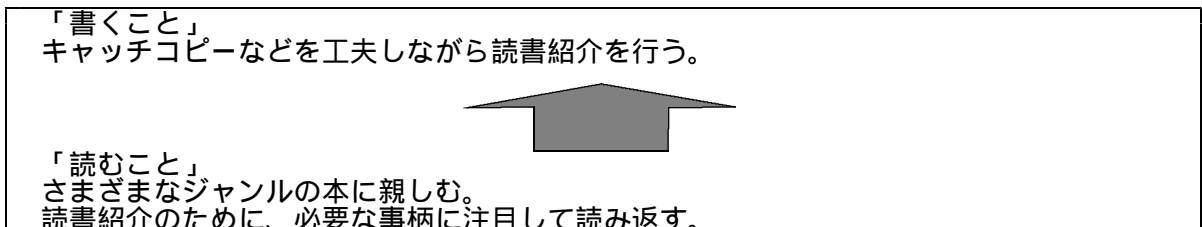
(1) 教材について

本教材は、筆者自身が、自然のなかに身を置いて感じたり考えたりしやことを写真と文章で構成している教材である。その中で、命と触れ合うことのできる地球上の豊かな自然の恵みに肌で触れたすばらしさを文章にしている。筆者の目を通じて森にい息づく美しいものは児童の心に伝わるものに違いない。この作品の世界を味わい、他の本を読み読書世界を広め深めることができる教材である。

6年上、「生き物はつながりの中に」では、検証を繰り返しながら、筆者の考えを主張する形となっている。その中で、1つの課題に対してさまざまな角度から解決を図るという多角的な物の見方を知ることができた。

自分について深く考える経験を持つことで、自分の考えたことを友達と話したり、自分と向き合ったりすることで、新たな読書へのきっかけになる教材である。

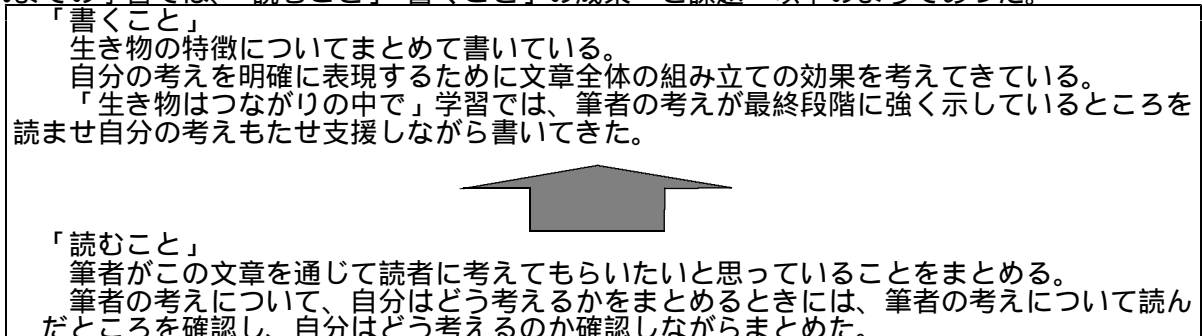
この教材で「読むこと」を生かした「書くこと」とは次のように考える。



(2) 児童について

朝読書、学校の本、しらかば号の本と多くの本に親しんで読んでいます。早く、内容がとらえられるようになって読む力が以前よりもついてきている。また、五感を生かして書くことや自分の気持ちを書けるようになってきている。「生き物はつながりの中へ」の学習では、生き物の特徴をとらえるなかで、自分は大切な存在であることを読み取ることができた。言語事項では辞典使い理解しながら学習している。

これまでの学習では、「読むこと」「書くこと」の成果と課題 以下のようであった。

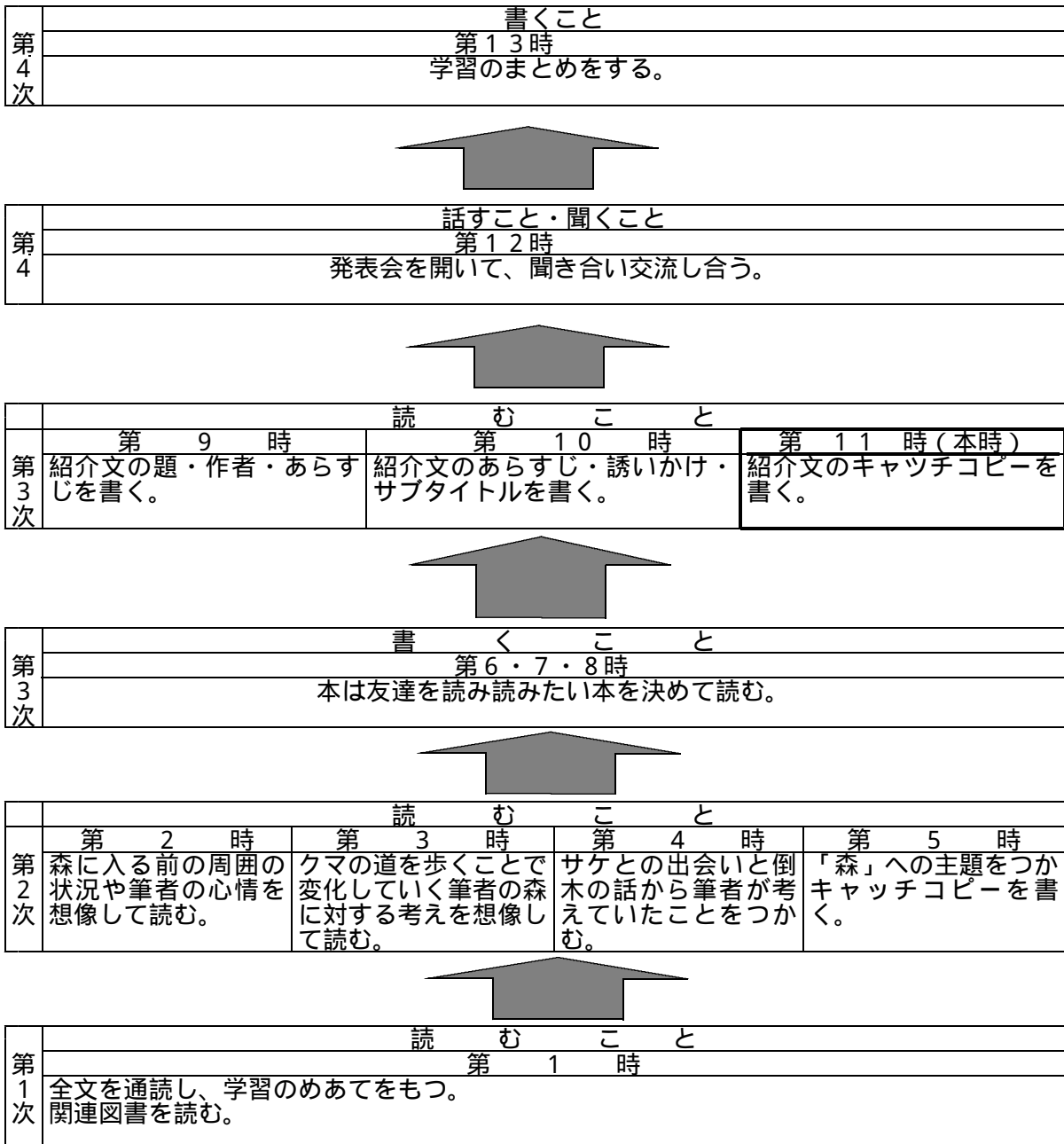


(3) 指導について

本教材は、自然の情景と筆者の心情に即して読む中で、五感を働かせた表現に着目してとらえさせる。その中で、筆者が会う、さまざまな動物について場面ごとに読み取らせていきたい。また擬声語や擬態語、比喩の表現にも着目させて情景を読み取らせ心情もとらえさせる。本は友達では新しい本を、本の紹介をする意図することを読ませる。紹介する本のあらすじ、サブタイトル、キャッチコピーを効果的に工夫して聞き手を惹きつけるよう五感や心情を生かして表現を考えさせる。

<p>「書くこと」 読むときには、五感、心情を生かして作者の心の動きに寄り添うように想起させながら書くことができるように支援する。 自分が読んだ本の紹介文を書く。 (本の名前・作者・サブタイトル・キャッチコピー・あらすじ・さそいかけ)</p>
<p>「読むこと」 叙述に即して登場人物の心情を回りの場面と対応させながら読むように支援する。 キャッチコピーを考えたいしょうかい文の例を読み内容を読み取る。 しょうかいの方法(サブタイトル・キャッチコピー・さそいかけ)</p>

(4) 「読むこと」と「書くこと」の相関図 (13時間)



5 評価規準
 具体的評価規準

筆者の心の動きと場面の情景を叙述に即して読む。(読ウ)
 さまざまなジャンルの本に親しむ。(読ア)
 読書紹介のために、必要な事柄に注目して読み返す。(読オ)
 キャッチコピーなどを工夫しながら読書紹介を行う。(書ア)

主な学習活動	評価規準 (方法)	具体的評価規準		
		A	B	C(指導の手立て)
	読書の世界を深めるためにさまざまなジャンルの本を読もうとしている。	読書の世界を深めるためにさまざまなジャンルの本を読もうとしている。	読書の世界を深めるためにさまざまな本を読もうとしている。	読書の世界を深めるためにさまざまなジャンルの本に興味を持たせる。
第1次 - 全文を読んでめあてをもつ。	読 全文を読んでめあてをもつ。	工夫された表現や筆者の心の動きを想像しながら読んでいる。	工夫された表現や筆者の心の動きを読んでいる。	工夫された表現や筆者の心の動きを想像しながら読むよう支援する。
第2次 - 森に入る前の周囲の状況や筆者の心情を想像して読む	読 海の動物たちの様子、筆者の気持ちを読み取っている。	海の動物たちの様子、筆者の気持ちを想像し読み取っている。	海の動物たちの様子、筆者の気持ちを読み取っている。	海の動物たちの様子、筆者の気持ちを読み取らせる。
第2次 - クマの道を歩くことによる森の変化に対する考えを想像して読む	書 森の動、植物に対する考えがどう変わったか読み取っている。	森の動、植物に対する考えがどう変わったか読み取っている。	森の動、植物に対する考えを読み取っている。	森の動、植物に対する考えがどう変わったか読み取らせる。
第2次 - サケと倒木の出会いから筆者の考えをつかむ。	読 サケと倒木の話から筆者の考えを想像して書く。	サケと倒木の話から筆者の考えを想像して書く。	サケと倒木の話から筆者の考えをして書く。	サケと倒木の話から筆者の考えを叙述にそくして読ませる。
第2次 - 森への主題をとらえる。	読 森に対する変化をおさえながら主題をまとめている。	森に対する変化をおさえながら主題をまとめている。	森に対する変化を考えながら主題をまとめている。	森に対する変化を疑問と答えでおさえながら主題をまとめるよう支援する。
第3次 - さまざまな本を知り読みたい本を決めて読む。	読 さまざまな本があることを知り読みたい本を決めて読んでいる。	いろいろな本があることを知り、本を選んで読んでいる。	いろいろな本があることを知り、本を読んでいる。	いろいろな本があることを知り、本を選んで読むよう支援する。
第3次 - (本時3/3) 読書発表会の方法をつかんで自分が選んだ紹介文を書く。	書 紹介内容を決め紹介方法をつかんで読書発表の原稿を書いている。	紹介内容を決め紹介方法のポイントをつかんで読書発表の原稿を書いている。	紹介内容を決め紹介方法をつかんで読書発表の原稿を書いている。	紹介内容を決め紹介方法をつかんで読書発表の原稿を書くよう支援する。
第4次 - 読書発表会を開き聞きあい意欲をもつ。	話 聞き手をひきつける工夫をして本の紹介をしている。	聞き手をひきつける工夫をして本の紹介をしている。	聞き手をひきつけて本の紹介をしている。	聞き手をひきつけるよう支援する。
第4次 - すすめられた本の感想を書く。	書 感動を中心に感想を書いている。	感動を中心に感想を書いている。	感動を感想を書いている。	感動を中心に感想を書くよう支援する。

6 本時について

(1) 目標

キャッチコピーを考えた紹介文を書く。

(2) 本時の構想

キャッチコピーを読み手を引きつけるような文にするために効果的な短い文をつくらせる。

6 年 生			
直間	学習活動と学習内容	指導上の留意点	段階
	1 前時までの学習内容を想起する。 2 本時の学習課題を把握する。 効果的なキャッチコピーを考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」で学んだことを確認する。 ・書名、作者、あらすじ 本時の紹介文のポイントをつかむ。 ・読者を引きつける文 ・キャッチコピー ・作品スタイルは、紹介文になることを確認する。 	つかむ 5分
	3- 自力で学習活動を追及する活動をする。 短い文で、キャッチコピーを書いてみよう。	自己学習がすすめられるように励ます。 <ul style="list-style-type: none"> ・読者を引きつける文 ・五感を生かす。 ・問いかけ 	ふかめる
	3- 教師と学習課題を追求する活動をする。 キャッチコピーのなかで引きつける文を選ぼう。	書いたところまで、確認する。 効果的な表現を教科書で確認する。	
	4 書いた文を確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・書いたら読み直し、間違いがないか確かめさせる。 	32
	5 学習のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・発表をする。 ・書いたことを発表する。 ・発表者には、書いたことを正確に分かりやすく発表することを確認する。 ・聞き手には、発表者が取り組んだ内容を考えながら聞くことを確認する。 ・3・6年生の発表を聞いて拍手する。 	まとめる 5分
	6 学習を振り返る。 7 次時の学習を確かめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時学習の振り返りを発表する。 ・よかったこと、がんばったことなど発表する。 ・表現タイムまでに学習で取り組むことを確認する。 	ふりかえる 3分

(3) 評価規準

A	紹介内容を決め紹介方法のポイントを的確につかんで紹介文を書いている。
B	紹介内容を決め紹介方法をつかんで紹介文を書いている。
C	紹介内容を決め介方法をつかん紹介文を書くよう支援する。

(4) 板書計画

読書発表会に向けて
キヤッチコピーを考えよう。
書名
作者
あらすじ
キヤッチコピーの書き方
・手順
・五感
・擬声語
・擬態語

